

発達障害を積極的に治す！

「ついに現れた革命的治療法」という帯がついている本「**発達障害を治す**」が、著者から送られてきました。著者は大森隆史先生で、「**東京健康クリニック**」の発達支援外来で発達障害の治療に取り組んでいます。

日本では自閉症には治療というものはなく、あるのは療育だけというのに対して、欧米では医療関係者や発達障害の子を持つ親たちが、治療に関する様々な発表をしているようです。

発達障害の原因は、**遺伝子多型（遺伝的な個人差）と環境的な要因の相乗作用**であり、先天的な因子と環境汚染物質による影響が考えられています。

インターネットで世界の情報が容易に手に入る時代ですが、欧米では常識的な知識や治療でも日本では全くその情報が入ってきません。大森先生は日本における発達障害の現状に異を唱え、遺伝子的栄養療法が効果的であることを伝えようとしています。

1990年後半から世界的に発達障害の子どもが増加しているようです。カルフォルニア州では、1990年に小児10万人当たり1人でしたが、2007年には0～4歳が12人に、5～9歳が4人に増加しています。

自閉症の**水銀原因説**があり、ワクチンに防腐剤として含まれている水銀化合物のチメロサルや歯科用金属のアマルガムなどが原因として欧米では過去に訴訟問題となっていますが、日本では関係ないと結論付けています。

そして水銀だけでなく**鉛やPCB、ダイオキシンなどの環境汚染物質**が、子どもの脳に与える影響に言及している論文が少なくありません。

欧米では、脳神経に対して毒素による炎症反応の影響を考慮し、**デトックス(毒素排泄)**と栄

養補助との両面からのアプローチへと進んでいます。日本ではほとんど進展はありません。

マグロなどの**大型魚**には水銀やPCBも蓄積しています。鉛は古い**水道管**から溶け出て水道水と共に体内に入ってきます。また以前使用していた**有鉛ガソリン**の鉛が現在も土壌に存在し食物などに含有されている可能性があります。鉛は、神経細胞を破壊し記憶力や学習能力の低下を招いてしまいます。

発達障害の「なぜ？」に答える章では、①なぜ、男子に多いの？②なぜ、座って学習できないの？③なぜ、言葉が出ないの？④なぜ、学力が伸びにくいの？⑤なぜ、目を合わせられないの？⑥なぜ、怖がらないの？⑦なぜ、痲癢を起こして、パニックになるの？⑧なぜ、こだわりが強いのか？⑨なぜ、覚せい剤作用のある薬剤が効果的なのか？という疑問に答えています。

「**毛髪ミネラル検査**」で重金属の汚染度をチェックします。「**尿中有機酸検査**」で脳の発達のために作られる有機酸という物質の尿中濃度を測定します。

乳製品や小麦製品でいきなり活動が活発になったりする場合は、「**尿中ペプチド検査**」が必要です。「**遺伝子多型検査**」もあります。

「**栄養療法**」では、神経伝達物質のドーパミン、ノルアドレナリンの代謝に関係するビタミンB6、B12、C、E、葉酸、セレンウム、脳の働きを高めるEPA・DHAを投与します。

有害物質を体外へ排泄するデトックスでは、「**αリポ酸**」の服用によって有害な重金属をキレート結合し排泄してくれます。

「治療はないけれど、療育は重要です。」が日本の現状で、世界中では発症原因の探求と積極的治療を研究しているのです。（たまなは）